

平成27年5月30日(土)

てらまちきゆういき ほうじょうじあと
寺町旧域・法成寺跡 (平成27年度調査)
現地説明会資料

調査場所 京都市上京区寺町通荒神口下の松蔭町131ほか

調査期間 平成27年2月3日～平成27年7月下旬(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
 〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
 URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

調査地は、寺町通と荒神口通に面し、京都御所の東に位置しており、藤原道長が寛仁4(1020)年に創建した法成寺の境内付近であったと推定されています。

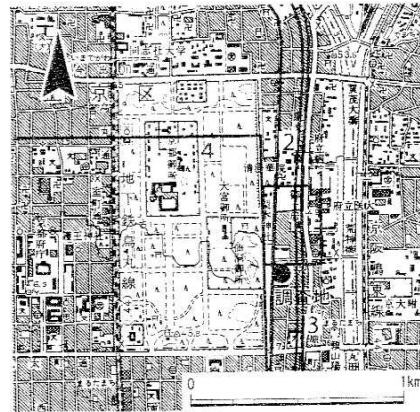
寺町通の由来は、豊臣秀吉が天正18(1590)年に京都の町割りを再編成し、京都市中に散在していた寺院を鴨川西岸に移転させて寺町を形成したことによります。「洛中絵図」寛永14(1637)年の調査地付近を見ると荒神口通から南に向かって、葦堂(行願寺)・専念寺・常念寺が描かれています。

宝永5(1708)年の大火によって、調査地周辺の寺院は焼失し、他所に移転しました。その後、周辺は他の寺院や武家屋敷として利用されましたが、再び天明8(1788)年の大火によって焼失しています。

今回の発掘調査は、府立鴨沂高等学校校舎改築工事に先立ち、昨年度から実施しています。昨年度は1～3・5トレンチの発掘調査を終了し、今年度は4・6・7トレンチの調査を実施しています。昨年度実施した1トレンチ・2トレンチの調査では、2度の大火による火災層の他、寺院に伴う建物跡や溝を確認しています。また、法成寺に用いられたと考えられる緑釉瓦が他の時期の遺物とともに数点出土しました。

2. 調査の成果

4・7トレンチ 宝永の大火以前の墓地、井戸、土坑などが見つかりました。墓地は4トレンチ全域にひろがり、**検出した墓は約250基**を数えます。墓坑はそれぞれが時期差を持ちなが



第1図 調査地位置図

(国土地理院 1/25,000「京都東北部」)

1. 法成寺跡 2. 寺町旧域 3. 御土居 4. 平安京跡

ら、南北方向に列をつくるように掘られています。1列の長さは約10mで、15基～20基の墓が並び、2列1組として墓群を形成しています。墓群と墓群の間には、30cm～50cm程度の隙間があり、現在の墓地の区画とよく似ています。埋葬の方法は、少数の火葬もありますが、多くは土葬で、木棺や甕棺に納められています。墓坑の中からは、肥前磁器染付椀、銅銭、煙管、犬形土製品などが出土しています。

土坑1・土坑2からは、石造物がたくさん出土しました。土坑1では一石五輪塔が互い違いに組まれて埋納されています。これらは宝永の大火後、寺を移転する際に墓地を整理し墓石などを埋納したと考えられます。また、土師器が大量に投棄された土坑も確認できました。

4トレンチを中心として多くの石仏、五輪